

## 消費者行動の背景にある心理を明らかにする

白井美由里

商学部 教授

学部3、4年生約24名が所属する研究会では、消費者行動を説明する理論的枠組みを考え、収集したデータで検証する実証研究に取り組んでいます。

消費者行動研究は、製品やサービスに関する消費者の購買意思決定に注目し、購買だけでなく、その前後の評価や行動を理論化する学問分野で、主に観察できない心理的な過程の解明を目的としています。

企業のマーケティング活動の成功には消費者理解が必要不可欠という考え方が定着し、消費者行動研究への注目が高まるとともに研究者も世界的に増加し、研究はますます活発に行われています。これまでに蓄積された膨大な数の研究は今日の研究のベースとなっていますが、消費者を取り巻く環境は常に変化しているため、消費者行動も変化します。例えば、インターネット、スマートフォン、およびSNSの普及は、これまではなかった消費者行動を生み出しました。近年では、サステナブル消費が注目を浴びています。グリーンやエシカル消費は以前から研究されてきましたが、それらを包含し、将来世代に負担や害を及ぼさない形で現在の消費ニーズの充足を図ることを

目的としたサステナブル消費は新しい流れとして捉えられています。消費者行動が変化すれば新たな研究が必要となり、新たな知見の発見につながるの

で刺激的で魅力的な分野です。消費者行動で最も重要な概念は「知覚」です。知覚とは主観的評価や解釈のことを指します。企業が優れた商品を市場に出したとしても、消費者がそのように知覚しなければ受容されません。消費者の知覚は企業のマーケティング活動への反応として生じますが、それには、製品特性、販売情報、購買状況、消費者の知識や価値観などさまざまな要因が影響を与えます。研究会では、その心理的メカニズムを分析しています。学生は自分の経験や耳目に触れる現象などからテーマを考え、先行研究の知見をベースに新たな視点を取り入れた仮説を設定し、それを検証する方法で研究しています。学生も消費者であり身近な行動を扱うので、そうした研究から消費者行動研究の面白さを感じてもらえたらと思っています。

### 消費者行動に影響を与える要因を見いだす

いのうみずき

井上瑞希君 商学部3年

白井研究会では、さまざまなマーケティング分析を用いて消費者行動を研究しています。統計ソフトの使用法の学習から論文の輪読、グループ研究に至る各活動において、学生同士で議論を重ね、白井先生から丁寧な解説とフィードバックをいただくことで、理解と関心を深めています。購買決定や選好に関わる要因、またその要因がもたらす影響などをマーケティング分析によって解き明かすことは、私たちの日々の生活との関わりが強く、大変興味深いです。また、時代や流行とともに変化し続ける、常に新しい研究領域であることにも魅力を感じています。



# 臨床解剖学と看護学の marriage

新規治療開発や診断法の精度向上に寄与することを目的に人体の構造と機能を解剖学的に研究する「臨床解剖学」を「看護学」に融合させる研究室です。

堀口 崇  
看護医療学部 教授

医師である私のプロジェクト(ゼミ)を履修する看護医療学部の4年生たちに共通するのは、臨床実習や日々の学習で芽生えた医学的な疑問を科学的に解決しようとする「実学」の精神と、

修得した高度な知識や学習体験を活かして「看護医療の未来」を先導したいと願う極めて高い志です。この願いをかなえるために「看護学との融合を目指した臨床解剖学の探究」を目的とした研究室を主宰しています。

学生たちは興味を持った臓器や疾患について、二つの学習方略で理解を深めていきます。一つ目は、解剖学的立体的構造を可視化するモデルの作成です。「亜区域気管支」「大脳白質・基底核・辺縁系神経ネットワーク」「腹腔内臓器と腹膜」「門脈と肝静脈」などをテーマに、臓器・器官の立体構造と機能の融合を重視した3D解剖モデルの自主制作に取り組んでいます。二つ目は、臨床解剖学から患者の抱える問題を解析することです。「脳卒中」「頭部外傷」「蘇生後脳症」などをテーマに、脳の機能

解剖について理解を深めつつ、損傷部位から予測される後遺障害が日常生活に及ぼす問題を患者の目線で言語化した看護実践の現状と課題について文献検討を行っています。

では、修得した「臨床解剖学」の知識をどのように「看護医療の未来」へとつなぐのか? さまざまな意見を出し合い議論を重ねていきますが、学生たちは私にはない「看護の視点」を持っていきます。若さと才能と情熱から生み出される看護医療部生の素晴らしいアイデアが「臨床解剖学」と融合していくことで、私が学びを深めることも珍しくありません。

「半学半教」の精神で、マイルストーンを刻みながら学問を究める喜びにワクワクする日々を経て、自分たちの成長過程を省察できるレベルに達した学生たちは「看護医療の未来」の先導者を託すに値する鳳雛そのものだと実感しています。皆さん! 「臨床解剖学」を究め「看護学」との marriage を楽しんでみませんか?

## 「できたらいいな」を実現する

柿元 絹生君 看護医療学部4年

堀口プロジェクトでは、教科書の知識を超えた臨床解剖学、病態生理学を学び、看護に生かすことができます。私は、「脳の神経線維ネットワーク3Dモデル」を作成しています。患者の代弁者として、高次脳機能障害をより正確にアセスメントするには「神経線維」の役割を知っている必要がありますが、3年生までの知識だけで理解できる教材がなく、こんな教材があったらいいな、と思い作成しています。作成に向け、解剖見学実習を通じてよりリアルな人体の構造を学んだり、脳の他の領域を学習する学生と意見交換をしたりしています。看護の枠に留まらない、看護医療学部らしい学びを得ることができます。

